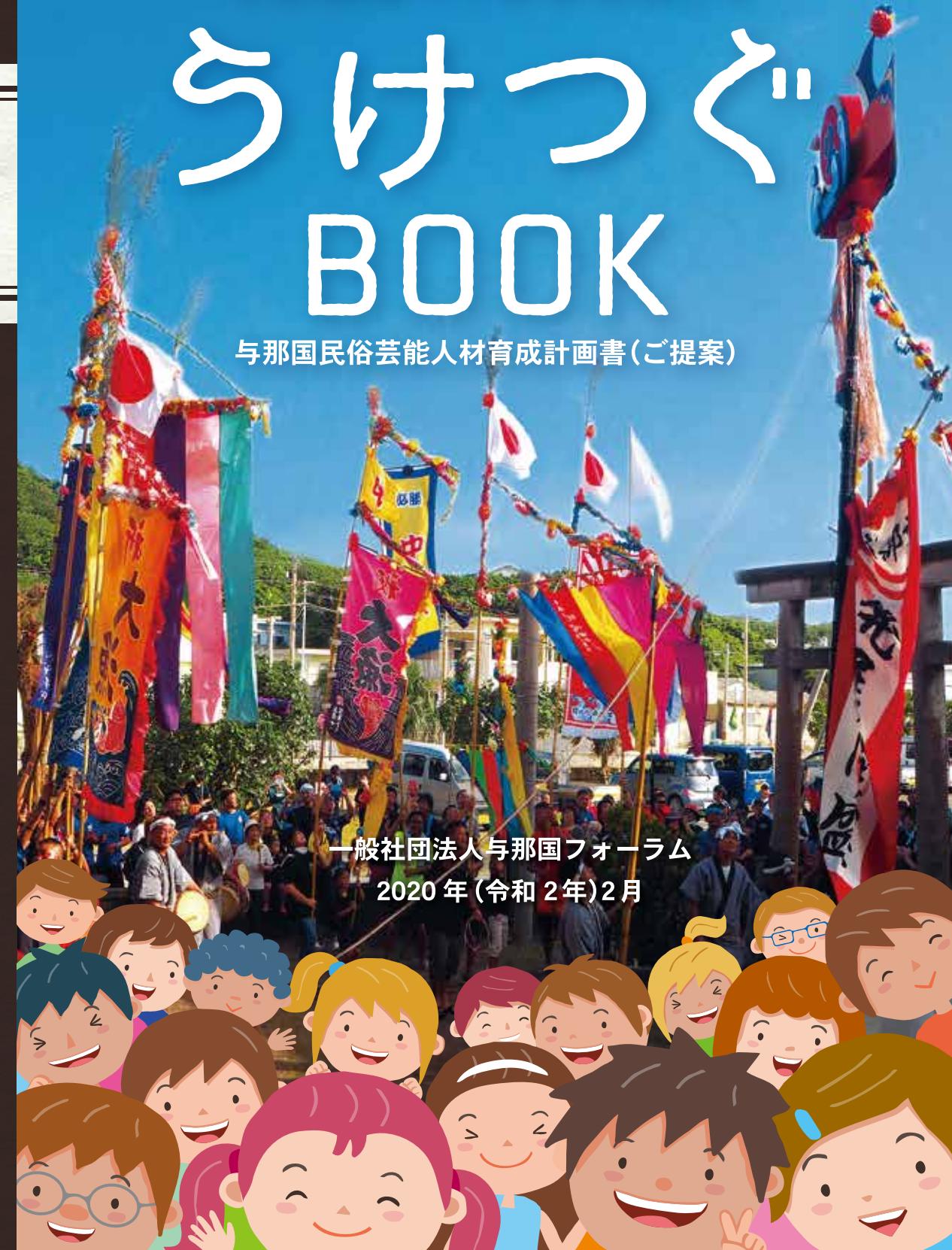


与那国島の「祭事芸能」を

うけつぐ BOOK

与那国民俗芸能人材育成計画書(ご提案)



<参考文献>

- 遠藤美奈編『八重山芸能のみらいを考える -「八重山芸能を考える連続講座』報告書』白保企画(2019年)
- 故・福里武市他著『改訂増補版声楽譜附 与那国民謡工工四全巻』与那国民俗芸能伝承保存会(1970年)
- 新村政二著、浦崎永二編、発行『与那国島 人とくらし』(1994年)
- 富里康子著『与那国民俗舞踊手引』与那国民俗芸能伝承保存会(1992年)
- 宮良保全著、宮良純一郎編『遺稿集 与那国島の民謡とくらし』あけぼの出版(2007年)
- 与那国町教育委員会編・発行『与那国島の祭事の芸能』(1988年)
- 与那国町史編纂委員会事務局編『町史別巻1 記録写真集 与那国』与那国町役場(1997年)
- 与那国町史編纂委員会事務局編『町史第2巻 民俗編』与那国町役場(2010年)
- 与那国町文化財調査委員会編『与那国町の文化財と民話集』与那国町教育委員会(1992年)
- 『与那国民俗芸能伝承保存会結成50周年記念誌』与那国民俗芸能伝承保存会(2019年)

<参考資料>

「文化デジタルライブラリー」

<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc12/hayawakari/index.html> (2020年2月20日)

平成31年度 沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

与那国民俗芸能人材育成計画書(ご提案)

発行日: 令和2年2月27日 一般社団法人与那国フォーラム

編・発行: 「与那国民俗芸能の継承に向けた調査、及び人材育成計画策定事業」事務局
〒907-1801 沖縄県八重山郡与那国町字与那国 1107番地

制作: クリエイティブファクトリー・パパラギ 〒901-0305 沖縄県糸満市西崎 5丁目12-9

支援: 沖縄県、公益財団法人沖縄県文化振興会

はじめに（町民の皆様へ）

この冊子は、これから与那国で民俗芸能を受け継ぎ、担う人材を育成するための、計画提案書です。町民の皆様、ならびに与那国町へ向けて、この冊子にまとめた提案は、与那国の民俗芸能、とくに舞踊と地謡（唄三線）の継承者を増やすには、どうすればよいか？というテーマで実施した、足かけ4年の調査※に基づくものです。

※平成28年度「与那国伝統芸能の保存継承に向けた調査、及び人材育成計画策定事業」（支援：沖縄県、公益財団法人沖縄県文化振興会、平成28年度「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」）。平成29・30・31年度「与那国民俗芸能の継承に向けた調査、及び人材育成計画策定事業」（支援：沖縄県、公益財団法人沖縄県文化振興会、平成29・30・31年度「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」）。

4年をかけても、関係者の皆様のお話を十分理解できたとは到底いえず、また、与那国の民俗芸能をとりまく状況を十分理解できたとも、到底いえませんが、それでも、この事業の歩みと成果をまとめ、今後の人材育成の方法として考えたことを、皆様に報告するに至りました。

足りないところ、間違っているところもたくさんあるかもしれません、そうしたところは皆さんで修正し、また別の方法を考えて頂いただければと思います。よりよい人材育成の方法を考えるきっかけとして、この冊子が少しでもお役に立ちましたら、幸いです。

令和2年2月

一般社団法人与那国フォーラム

「与那国民俗芸能の継承に向けた調査、及び人材育成計画策定事業」事務局

与那国島の 「祭事芸能」を 受け継ぐ人を 育てるために 何ができるか？



与那国民俗芸能人材育成計画書（ご提案）



「知ってた～？
先祖代々、受け継がれてきた
与那国島の祭事芸能は
「国指定重要無形民俗文化財」
なんだって～

1985年（昭和60年）に制定

与那国島の
祭事芸能って
すごいんだ
ねえ～！

ところで
「国指定重要
無形民俗文化財」
って何？

「国指定重要無形民俗文化財」とは？

重要無形民俗文化財（じゅうようむけいみんぞくぶんかざい）は、衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など、人々が日常生活の中で生み出し継承してきた無形の民俗文化財のうち、特に重要なものとして国が指定したもの。

ということは…
私たちが“受け継が”
なきや！
いけないんだね！

まずは「現状」を
知っておこう！

step 1

「祭事芸能」を 守っている人が いたって知った？

国の指定文化財には、
必ずそれを守り、受け継いでいく団体が
責任者として登録されている。

↓
与那国町の「国指定重要無形民俗文化財」保持団体
「与那国民俗芸能保存会」=「自治公民館」

公民館の誰が守っているの？→「館長さん・役員さん」

- 公民館は、祭事の運営を通じて芸能を守っている！
 - 公民館長・役員は、2年交代の持ち回り。
 - 館長は顧問（館長経験者）の依頼によって就任し、1回のみ。
 - 副館長は、経験者から選ばれることが多い。
 - 役員は、就任する館長が任命することが多く、一人が何回か経験する場合もある。
- ※必ずしも、集落住民全員が必ず役員を経験するわけではない。

集落の中心にある
公民館が
守っていたんだね！



与那国の「祭事芸能」を守ってくれている 5集落の「保存会=公民館」と役員さんの人数

与那国町の「国指定重要無形民俗文化財」保持団体（1985年（昭和60年）1月12日指定時のもの）
※県教育庁文化財課「～令和元年度版～文化財課要覧」より



これも
公民館の人たちが
やってたんだね！



館長さんと
役員さんが
いたんだね！
知ってる人もいるはず！



自治公民館名	性別	男女別	合計	世帯数	館長・役員数
東自治公民館	男	193	391	187	8
	女	198			
西自治公民館	男	222	419	228	9
	女	197			
嶋仲自治公民館	男	82	147	77	6
	女	65			
久部良自治公民館	男	383	621	393	11
	女	238			
比川自治公民館	男	69	137	68	5
	女	68			
合計	男	924	1,715	954	39
	女	782			

*与那国町「人口及び世帯数調査表 令和元年12月31日」、与那国町自治公民館連絡協議会提供の組織図をもとに作成。

まずは「現状」を
知っておこう！

step 2

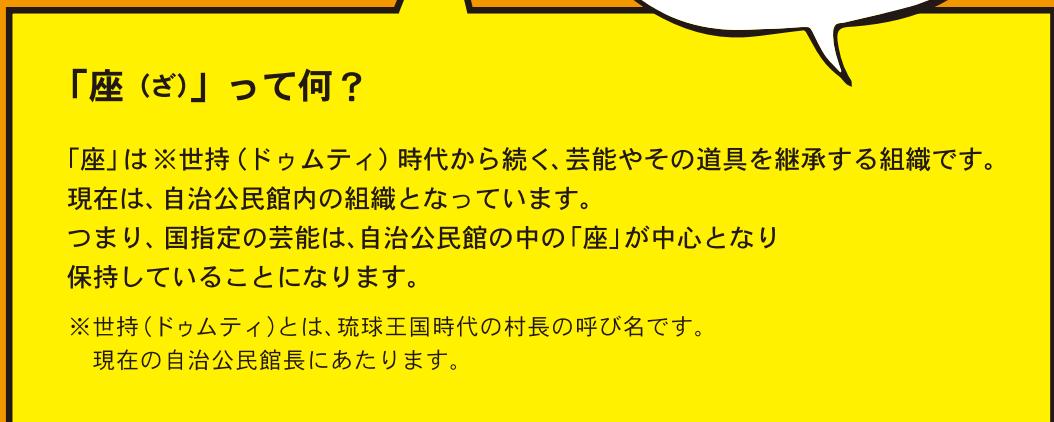
演目を守っている
団体は2つ！
中心となる組織は
「座」！

「座（ざ）」って何？

「座」は※世持（ドゥムティ）時代から続く、芸能やその道具を継承する組織です。
現在は、自治公民館内の組織となっています。

つまり、国指定の芸能は、自治公民館の中の「座」が中心となり
保持していることになります。

※世持（ドゥムティ）とは、琉球王国時代の村長の呼び名です。
現在の自治公民館長にあたります。



現在活動している「座」

昔は9つあったが、現在は3つになってしまった！

※名前が残っていても、毎年活動していないと思われる座は省略しています。



棒座



踊座



三線の座（比川のみ）

まずは「現状」を
知っておこう！

step 3

祭事を行う 公民館が大変に なってるらしい！

大丈夫なの？心配！
私たちの大好きな
祭りは
なくなっちゃうの？



どうして「公民館が大変！」になってるの？

昔は、公民館役員さんの他に祭事で祈願を行う※「司(つかさ)」が13人！
それをサポートする※「ティディビ」がいたようですが
現在は※「司」は一人だけ！※「ティディビ」はいなくなりました。



そのため、大きな祭事では、公民館の館長さんと役員さんのご家族が
中心になりながら、集落の人たちもお手伝いして祭事が開催されて
いるんです。しかし、その他の祭事の準備や祈願は、公民館の役員さんと
一人しかいない「司」によって行われているのです。



なので…公民館ごとに「数人しかいない役員さん」と
一人しかいない「司」の負担が大きくなっている！

※司(つかさ)とは？

公民館長の依頼を受け、祭事において与那国のために神に祈る女性神役。かつては13の御嶽(ウガン)に一人ずつ、
計13人いたといわれるが、現在は一人しかいない。

※ティディビとは？

司の補佐役。祭事において神に捧げる供物を準備したり、司の祈願のために線香をあげたりして、
司の仕事を助ける役目。そのため、祭事の式次第を司と同じように把握していた。
現在はいないため、公民館役員が代わりに務めている。

平成 31 年度 与那国町自治公民館祭事計画日程

新暦月日	旧暦月日	曜日	干支	干	支	六曜	祭事
4月 3日	2月 28日	水	庚午	かのえ	うま	大安	カドゥムヌン
4月 5日	3月 1日	金	壬申	みずのえ	さる	先負	旧朔日ニンガハイ (十山御嶽)
4月 19日	3月 15日	金	丙戌	ひのえ	いぬ	大安	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
5月 2日	3月 28日	木	己亥	つちのと	び	赤口	チチヌニンガハイ
5月 5日	4月 1日	日	壬寅	みずのえ	とら	仏滅	旧朔日ニンガハイ (十山御嶽)、イスカバイ
5月 19日	4月 15日	日	丙辰	ひのえ	たつ	赤口	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
5月 24日	4月 20日	金	辛酉	かのと	とり	大安	ツアバムヌン フームヌン
6月 3日	5月 1日	日	辛未	かのと	ひつじ	大安	旧朔日ニンガハイ (十山御嶽)
6月 6日	5月 4日	木	甲戌	きのえ	いぬ	友引	ドゥガヌチー 久部良海神祭
6月 21日	5月 19日	金	己牛	つちのと	うし	大安	ドゥムヌムヌン
7月 1日	5月 29日	月	己亥	つちのと	び	先負	チチヌニンガハイ
7月 5日	6月 3日	金	癸卯	みずのと	う	友引	アミウリ (祖納・比川)
7月 12日	6月 10日	金	庚戌	かのえ	いぬ	先負	比川ウガンフトゥティ
7月 13日	6月 11日	土	辛亥	かのと	び	仏滅	久部良ウガンフトゥティ
7月 17日	6月 15日	水	乙卯	きのと	う	友引	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
7月 21日	6月 19日	日	己未	つちのと	ひつじ	赤口	祖納ウガンフトゥティ
8月 30日	8月 1日	金	己亥	つちのと	び	友引	旧朔日ニンガハイ (十山御嶽)、チチヌニンガハイ
9月 1日	8月 3日	日	辛丑	かのと	うし	仏滅	アラガトウタガビ
9月 3日	8月 5日	火	癸卯	みずのと	う	赤口	アラミディ
9月 17日	8月 19日	火	丁巳	ひのと	み	友引	ダティグ クイ
9月 24日	8月 26日	火	甲子	きのえ	ね	先負	八月ウチニンガハイ
9月 29日	9月 1日	日	己巳	つちのと	み	先負	旧朔日ニンガハイ (十山御嶽)
10月 13日	9月 15日	日	癸未	みずのと	ひつじ	大安	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
10月 28日	10月 1日	月	戊戌	つちのえ	いぬ	仏滅	旧朔日ニンガハイ イスカバイ (十山御嶽)
10月 29日	10月 2日	火	己亥	つちのと	び	大安	チチヌニンガハイ (シティ祭)
11月 11日	10月 15日	月	壬子	みずのえ	ね	赤口	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
11月 19日	10月 23日	火	庚申	かのえ	さる	友引	クブラマチリ (久部良自治公民館)
11月 20日	10月 24日	水	辛酉	かのと	とり	先負	ウラマチリ (東自治公民館)
11月 23日	10月 27日	土	甲子	きのえ	ね	赤口	ンディマチリ (比川自治公民館)
12月 11日	11月 15日	水	壬午	みずのえ	うま	先勝	ンマナガマチリ (鳩仲自治公民館)
12月 12日	11月 16日	木	癸未	みずのと	ひつじ	友引	ンダンマチリ (西自治公民館)
12月 13日	11月 17日	金	甲申	きのえ	さる	先負	アンタドウミ (全公民館)
12月 28日	12月 3日	土	己亥	つちのと	び	友引	チチヌニンガハイ
1月 9日	12月 15日	木	辛亥	かのと	び	友引	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
1月 25日	1月 1日	土	丁卯	ひのと	う	先勝	旧正月 ドゥヌニンガハイ 旧朔日の願い (十山御嶽)
2月 8日	1月 15日	土	辛巳	かのと	み	先負	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
2月 26日	2月 3日	水	己亥	つちのと	び	仏滅	チチヌニンガハイ
3月 2日	2月 8日	月	甲辰	きのえ	たつ	先負	タナンドウリ
3月 9日	2月 15日	月	辛亥	かのと	び	仏滅	旧十五日ニンガハイ (十山御嶽)
3月 18日	2月 24日	水	庚申	かのえ	さる	先勝	カドゥムヌン
3月 22日	2月 28日	日	甲子	きのえ	ね	大安	二月ウチニンガハイ
3月 24日	3月 1日	火	丙寅	ひのえ	とら	先負	旧朔日ニンガハイ (十山御嶽)

* 西は十山御嶽に入れない



大きな規模の祭事は・・・

① 海神祭 (かいじんさい)
(久部良自治公民館)

② 豊年祭 (ほうねんさい)
(久部良自治公民館、比川自治公民館、祖納自治公民館連絡協議会)

③ マチリ
(久部良自治公民館、比川自治公民館、東自治公民館、鳩仲自治公民館、西自治公民館)

1年間で42回!
そりゃ大変だー



まずは「現状」を
知っておこう！

step 4

「祭事芸能」を 受け継いでいる人は どの位いるの？

check check !

棒踊	集落の座ごとに、少なくとも演者 10 名以上。
舞踊	集落の座ごとに 10 数名、与那国民俗芸能伝承保存会会員中、現役の踊手は数名。
地謡	主に研究所や個人が担う。笛、太鼓を含め、島全体で数名。
狂言	東・西集落に数名の経験者がいる。現在は出演機会がないため、後継者が育っていない。
組踊	東・西・比川集落に座の師匠が残っているが、狂言と同じく出演機会がないため、後継者は育っていない。ただし、経験者は全集落の 60 代を中心に多数。
ミルク	ミルク役は世襲制。嶋仲のみ経験者がいる。比川の経験者は島外に移住。
スルブディ	一昨年、祖納青年会によって復活したため、それまでの経験者も含めれば少なくとも 20 名以上。

課題

特に「舞踊」「地謡」を受け継ぐ人が少ない！

<舞踊の現状>

- 2人ひと組、または3人以上、4人以上の踊りが多いので、各座に10数人いてもギリギリの人数。
- 久部良には座がないため、舞踊を出すときはそのつど出演者を探さなくてはならない。与那国民俗芸能伝承保存会も、出演者確保には苦心している。
- 師匠は主に70代が中心で、現役は主に30・40～50代。
- 座、与那国民俗芸能伝承保存会とともに、中学生もたびたび出演している。



<舞踊における地謡の現状>

- 現役「唄三線」：70代2名・40代2名（島外出身）・30代1名
- 現役「笛」：70代1名・10代1名
- 現役「太鼓」：30代1名
- 行事には、中学生も唄三線で1名ほど参加することがある。



現状

50代～60代の指導者や演者 20代の演者が少なくなっている！



■各集落に「唄三線だけでも3人ずつ」必要！

■公民館ごとに出演する豊年祭は「15人（3人×5公民館）」必要！

太鼓と笛を入れると「合計25人」が必要！なんです。

どうすればいいか
考えよう！

Step 1

受け継ぐ人を 「増やす」には？



現状をもう一度、おさらいしてみよう！

- 文化財の指定を受けるまでは、祭事芸能の人材育成を、自治公民館の「座」や、「与那国民俗芸能伝承保存会」が中心になって行ってきた。
↓
- 現在は、地謡や舞踊は「座」や「与那国民俗芸能伝承保存会」でも継承者が少なくなり、狂言や組踊は演じる機会もなくなっている。
↓
- さらに、地謡については比川集落を除いて「座」が無いため舞踊の地謡は、個人の研究所などが出演を担っている。



「受け継ぐ人を増やす！」には、
芸能を受け継いでいる「各団体の協力」が必要！

提案 与那国出身の若者に 興味をもってもらう！

- 進学や就職のために与那国を離れた若者
- 中学までの郷土学習や、「棒座」「踊座」
「与那国民俗芸能伝承保存会」「研究所（唄三線）」などを通じて、与那国の芸能に親しんできた若者。
- 「郷友会」を通した、しくみができると理想的。

ニーニーやネエネエが
ときどき帰ってきたら
うれしいさ～！



具体案1 「舞踊」を受け継ぐ人を 増やしたい！

工工四や舞踊譜の制作、学校の郷土学習の指導にあたり、最も多くの古謡や舞踊を継承している「与那国民俗芸能伝承保存会」が中心になり、「郷友会」に舞踊を教えることで、「郷友会」で舞踊を練習する与那国出身の若者を増やす。将来、与那国に帰ってきて、祭事に出演したり、さらに、その中から指導者が生まれるかもしれない。



具体案2

舞踊にも組踊にも 必要不可欠な 「地謡」の演奏者を 増やしたい！

「研究所」や「与那国民俗芸能伝承保存会」以外にも、各集落に複数名、三線を弾ける経験者がいる。(組踊の三線奏者や、青年会での三線奏者を含む)組踊でも、各公民館の組座ごとに地謡が必要になるので、集落ごとに地謡の養成が必要だと思われる。



どうすればいいか
考えよう！

step 2

受け継ぐ人を 「育てる」には？

「シティブディ」の 復活！

10年以上行われていないが、もし復活すれば
与那国島の民俗芸能のうち、ほとんどの演目に
上演のチャンスを作ることが出来る！



シティブディ
見てみたい！

「シッティ(節祭)とシティブディ(シティ踊り)」

シッティ(節祭)とは、旧暦9月の己亥(つちのと・い)の日から三日間行われる悪魔払いの行事で、各家庭ではンバかずらを家の柱や立木などに巻き付けて魔除けにする。祖納と比川の各公民館は、獅子を起こして各家庭を回って厄払いをしたのち、海岸からアンドゥヌチマ(島)に島の厄を送る。

「節」とは、昔は正月の意味があったという。

シティブディ(シティ踊り)は、シッティの期間中の昼間に、島内の広い場所を使って、各公民館が対抗して、総動員で芸能を披露する祭事芸能である。

「芸能は、ウブンダ、ミルク(弥勒)、舞踊、キングイ(狂言)、クミブディ(組踊)、ブー(棒踊り)と多彩である」(与那国町教育委員会編・発行『与那国島の祭事の芸能』(1988年) p.18)。

また、昔は一つの公民館で約150名が参加し、約6時間にわたって行われたという。近年は、10年ごとに町制施行の記念行事として、町が実行委員会を組織して行うようになった。



与那国町史編纂委員会(1997)p.143



できることから
はじめよう！

step 1

「育てる」ための 勉強会（組踊地謡、狂言） してみませんか？

「全集落のみなさん」を対象に広く募集！（提案）

年齢や性別、居住集落、出身地、楽器演奏や舞踊の経験の有無を問わず、関心のある人なら誰でもOK！
「講習会」は技術講習だけでなく、楽器作り体験や、演目の由来についてのお話などが盛りだくさん。
さらに、フィールドワークや島外研修なども取り入れた特別コースもつくってみては？どうでしょう。

■勉強会の主催・会場：DiDi

私たちも参加できるんだ
楽器作りなんかもあって
楽しそう！

「シティブティ」が毎年、開催可能になったら…

■シティブティを目標に勉強会を行うことができる！
■公民館から依頼があれば、勉強会の中から演目を出すこともできる！



受け継ぐ人を「育てる」ための勉強会

組踊地謡
(くみおどりじかた)

唄と三線などの楽器で、舞踊とともに演目を構成する人たち。
与那国島の舞踊では、与那国島の唄や八重山の唄を歌うことが多いが、
与那国島の組踊の地謡を務めるためには、
琉球古典音楽を修得しなければならない。



提案

■講師は「在沖縄与那国島郷友芸能愛好会」に、講師探しの協力を依頼！
■各集落から集めた三線奏者が、組踊「地謡」の勉強会をきっかけに、「与那国民俗芸能伝承保存会」や「各研究所」などで、さらなる勉強に励み、舞踊の地謡も務められるようになるのが理想。また、最終的には、比川集落のように各集落で三線（地謡）の座が復活することを期待したい。



舞踊
(ぶよう)

豊年祭やマチリなどの祭事で披露される踊り。
与那国島や八重山では、祭事において降りてきた神を迎え、共に舞い踊るところから始まったという。そのため、豊年祭などの祭事で披露される芸能には、神に捧げる供物という意味がある。



提案

■DiDiを会場にして、「与那国民俗芸能伝承保存会」の先生たちが「郷友会」の人間に踊りを教えてはいかがでしょうか？

狂言
(キンガイ)

与那国島では、与那国島の方言や、沖縄本島の方言を使って行われる、語りや劇。
祈りのための狂言や、笑いを誘うお話を演じる狂言などがある。



提案

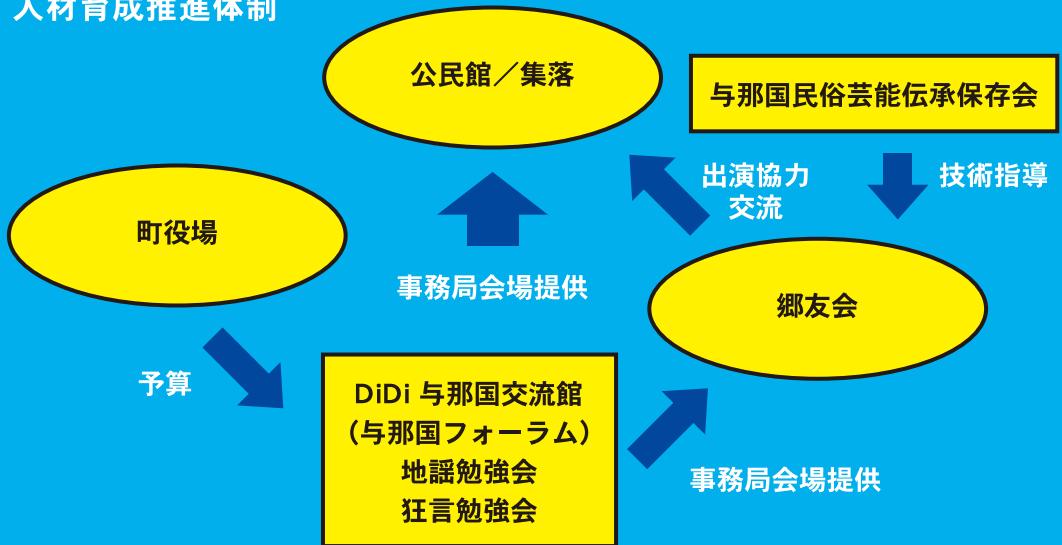
■指導が可能な東と西の狂言経験者に講師依頼！
■東と西の演目を中心に、全集落の演目の復活を目標とする。そのため、講師の指導だけでなく、映像資料や台本なども掘り起こす。講師も知らない演目については、講師・受講者ともに資料を活用しながら練習する。中学校の「総合的な学習」の時間にも狂言を入れてもらってはどうでしょうか？

できることから
はじめよう！

step 2

勉強会の 「しくみ」を 考えよう！

「シティブディ開催」をメインとした
人材育成推進体制



島のみんなが
つなが^るってるね！
しくみってスゴイさ～！



提案 「シティブディ」を復活するために…

- 日取り：シッティ期間中（初日の日中）
※「毎年」の開催を希望！

- 主催：与那国町自治公民館連絡協議会



与那国町史編纂委員会 (1997) p.151

■奉納芸能：※毎年、各公民館の持ち回りで奉納する

- ①ウブンダ ②組踊 ③ミルク ④狂言 ⑤獅子棒 ⑥獅子の奉納

※棒座は毎年、シッティの初日、夕方に獅子を起こしますが、かつてのように、
日中の舞台で獅子を起こし、その後夕方から家々を回ることはできないでしょうか？

■公民館に準備と練習を依頼！

●組座の師匠を中心に「地謡勉強会」受講者と一緒に練習してはどうでしょうか。
シティブディが毎年行える場合、各組座は毎年持ち回りで一点ずつ奉納できるため
(公民館長と師匠の判断次第ではあるが…) 与那国の全集落から、一つの組座に
出演希望者を集めることができるとなるかもしれません。

※もちろん「集落の人間だけで構成する」ことも公民館長や師匠の判断次第であり得る。

●ミルクを起こすことは、嶋仲公民館にしかできない(2020年現在)ので、
ミルクと組踊を継承する嶋仲と、組踊を継承する東、西、比川公民館を合わせて
各公民館が、毎年持ち回りで、ミルクか組踊のいずれかを奉納してはどうでしょうか？

■「郷友会」にも舞台奉納の機会を設ける

※郷友会から舞踊や棒踊の奉納希望があれば、公民館の判断で舞台奉納を
受け入れてはどうでしょうか？



現在、郷友会が与那国で舞台奉納をする機会はないため、毎年できれば
郷友会が与那国に帰る機会が増え、公民館との交流につながる。

- 芸能奉納団体：与那国町自治公民館連絡協議会、郷友会

- 事務局（書記会計）：一般社団法人与那国フォーラム

- 衣装・道具準備協力：一般社団法人与那国フォーラム
(新規制作・補修協力、クリーニング代補助、保管場所提供等)

- 奉納芸能会場：DiDi 与那国交流館



- 舞台設営・当日舞台スタッフ：公民館へ委託

- 財源：与那国町役場「ばんたドゥナン島基金」の活用など

※「シティブディ」が、ふるさと納税のPRになれば、税収増のきっかけにもなる。



子供たちを
未来につなげよう！

step 1

教育委員会と中学校への提案

他の島の 祭事芸能と 交流ネットワークを つくろう！



他の島と「島の祭事芸能」で、つながろう！

与那国島と同じように、人口減少に悩みながら祭事とその奉納芸能を守り続けている島は数多い。

与那国島は、高校進学で沖縄本島に出ると与那国の芸能に触れる機会はかなり少なくなる。

↓だったら

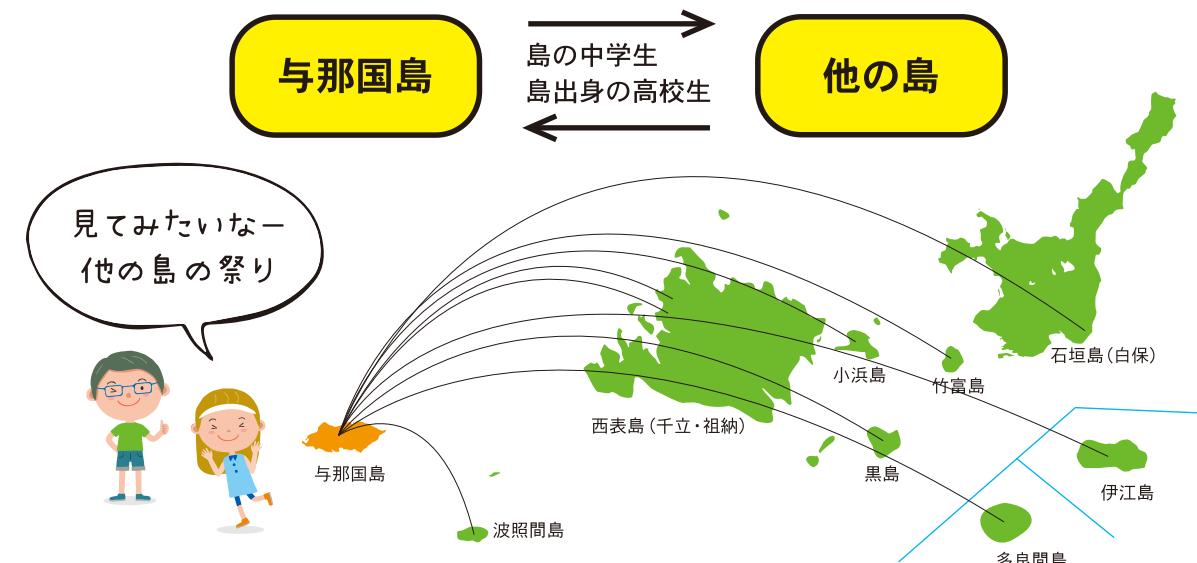
島を離れた高校生や、島の中学生と、他の島で祭事芸能を守る人びと、特に同世代の子どもたちとの交流の機会を作ることができれば、互いに情報交換し、祭事芸能でつながることができるのではないか？

1

提案1 他の島の祭事芸能を見学、体験しに行ってみよう！

与那国島以外の島にも独自の「祭事芸能」があります。それを子供たち自身の目で見て体験し、同年代の子供たちと交流することは、とても有意義なことです。

また、組踊や狂言のある島との交流ができると、これらの演目の継承もより活発になるのではないでしょうか。さらに、その体験を学校の文化祭や課外活動等で報告したり、感想を発表する場があれば、次の子供たちへのバトンタッチにもなると思われます。以上を教育委員会、学校へ提案します。



提案2 教育者同士の ネットワークを活用！

転勤などで、他の島の芸能を経験された先生や教育委員には、他の島とのネットワークを持っていらっしゃる方が多いので、それを活かし子供たちが他の島の祭事を見学し、交流できるしくみを検討して頂けないでしょうか。



提案3 総合的な学習(郷土学習)の 時間を活用！

他の島との交流を郷土学習の一環として「総合的な学習」の時間に取り入れてみてはどうでしょう。

与那国民俗芸能人材育成計画 提案のまとめ

地謡

- DiDi で「組踊」の勉強会。
↓
- 各公民館の組踊立方とともにシティブディで奉納。
↓
- 各集落の地謡へと育つききっかけに。

狂言

- DiDi で「狂言」の勉強会。
- 練習だけではなく、演目の掘り起こしも行う。
- 毎年、シティブディでの奉納を目標にすることで各公民館での継承者育成のきっかけに。

舞踊

DiDi を会場にして、
郷友会が与那国民俗芸能伝承保存会から習うことにより
郷友会でも敬老会、総会等で演じる演目が増える。

- ↓
- 毎年、シティブディで奉納するために、与那国に帰ってくる。
- 将来、与那国に帰りたいと思う郷友を増やすきっかけに。
- 将来、与那国に戻り、芸能をしたいと思う若者を増やすきっかけに！

他島の祭事芸能との交流ネットワーク作り

中学生以下の子供達が、卒業後に島を離れても
芸能を続けていきたいと思うモチベーション作りに。
大人になったら、島に帰ってこられるように！

人材育成計画を実行していくために 与那国町へご提案

組踊地謡勉強会

舞踊勉強会

狂言勉強会

シティブディ開催



町役場からの支援（予算）が必要です。

他島の祭事芸能との 交流ネットワーク作り



町教育員会、学校による実施をお願いします。



「祭事芸能」の
未来のために
今できることを
みんなで
考えましょう。

